学校番号	404

令和5年度　　家庭科

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「家庭総合　自立・共生・創造」（東京書籍出版）						
副教材等	「家庭科55資料集」（教育図書）						

1. 担当者からのメッセージ（学習方法等）

インスタントシニア体験や絵本製作を通して、生活の充実向上に向けた実践的な態度を育てるきっかけとし、ICT機器を利用した視覚に訴える授業を展開します。

2. 学習の到達目標

人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、住生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b：思考・判断・表現	c：技能	d：知識・理解
観点の趣旨	人の一生と家族・家庭及び福祉、住居、消費生活などについて関心をもち、その充実向上をめざした主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、住居、消費生活などについて生活の充実向上を図るための課題を見いだし、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、住居、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、住居、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 ノートやワークシート 実習記録 レポート 自己評価	学習状況の観察 ノートやワークシート 実習記録 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価	学習状況の観察 ノートやワークシート 製作品 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価	学習状況の観察 ノートやワークシート 実習記録 レポート、発表 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4．学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	自分らしい人生をつくる	○各ライフステージの特徴と課題を理解する。 ○生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめ，生活課題に対応した意思決定の大切さを理解する。 ○男女が相互に協力して家庭を築くことの重要性を理解し，家庭生活の在り方について考える。 ○家族・家庭に関する基礎的な法律を知り，現在の動きを把握する。 ○家事労働・職業労働について知り，ワーク・ライフ・バランスについて考える。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a：生涯発達の考え方に立ち，各ライフステージの特徴と課題に関心を持ち，青年期の課題について具体的に考えようとしている。 ・固定的な性別役割分業意識を見直し，多様な生き方を認め，積極的に家族・家庭と社会との関わりを考えようとしている。 b：自分を見つめ，肯定的な自己概念を持ち，自分の人生や進路について考えを深め，具体的にまとめている。 ・家庭生活を支える法律や社会制度，ボランティアの在り方について考え，まとめたり，発表したりしている。 ・男女共同参画の面から，各自が担う家庭での役割と自立について考え，まとめたり，発表したりしている。 c：家族や家庭生活の在り方などについて検討するために，新聞や書籍などから必要な資料を収集したり，調査したりすることができる。 d：生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解している。 ・青年期の課題や現代家族の特徴，家庭機能の変化，家庭生活と社会との関わりについて理解している。 ・自分らしく生きるために目標を持ち，生活課題に対応した意思決定を自分で行うことの大切さや考え方を理解している。	授業観察 ワークシート 定期考査 自己評価 相互評価
1	高齢社会を生きる	○高齢社会の現状と課題を理解する。 ○高齢期の心身の変化や特徴と，個人差が大きいことを理解する。 ○高齢者を支援する方法を具体的に学ぶ。 ○身近な高齢者との触れ合いの機会を探す。 ○高齢者に関する福祉について学び，高齢者を支える制度と課題を考える。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a：高齢社会の現状と課題，高齢者の心身の特徴や生活などについて関心を持ち，高齢者を肯定的にとらえ，高齢期の生活について考えようとしている。 b：高齢者や高齢者を取り巻く社会について，具体的に課題を見い出し，その解決を目指して思考を深め，まとめたり，発表したりしている。 c：体験的実習を通して，高齢者と適切に関わることができる。 ・高齢者の日常生活に必要な基礎的介助ができる。 ・地域の高齢者福祉サービスについて情報を収集したり，調査したりすることができる。 d：高齢社会の現状と課題，高齢者の心身の特徴や生活について理解している。 ・体験的実習を通してコミュニケーションを図り，高齢者の意思を尊重し，思いやりをもって接することの大切さを理解している。 ・高齢者の尊厳を保ち，残存能力を生かした自立生活支援の必要性を認識している。	授業観察 ワークシート 定期考査 自己評価 相互評価

2	子どもと共に育つ	○出産前後の健康管理と子どもの発達の様子および発達段階を知る。 ○人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを理解する。 ○遊び，基本的生活習慣の形成，食事，健康管理について知る。 ○子どもとの触れ合いを通して，愛着の形成と親としての成長を理解する。 ○子どもを取りまく社会変化の現状について理解し，考える。 ○児童福祉の理念を理解し，子育て支援の在り方について考える。	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○	○ ○ ○ ○ ○	a：母体の健康と子どもの誕生，子どもの心身の発達について関心を持ち，家族の果たす役割を考えようとしている。 ・子どもとの触れ合いを通して，発達や生活に関心を持ち，保育の重要性や社会の果たす役割を考えようとしている。 ・子どもを取り巻く環境や子育てにおける課題に関心を持ち，課題解決に向けて考えようとしている。 b：児童虐待や育児不安の事例研究を通して，原因および解決について考えを深めようとしている。 ・子どもを取り巻く環境の変化と子どもを生み育てることの意義，社会・地域・親の果たす役割について考え，課題を見い出し，まとめたり，発表したりしている。 ・子どもと触れ合う学習活動について，学習目標，実習中の判断，学習後の振り返りなど，成果をレポートにまとめたり，発表したりしている。 c：子どもの生活や子どもを取り巻く環境，子育てにおける課題などについて，情報を収集したり，調査することができる。 d：生命の尊さ，子育ての意義の重要性について理解している。 ・妊娠や出産に関わる知識を身につけている。 ・子どもの心身の発達や生活と環境との関わりについて，家族および地域や社会の果たす役割を認識するために必要な知識を身につけている。 ・社会全体で子育てを支援する必要性を認識し，子どもの権利と福祉について理解している。	授業観察 ワークシート 定期考査 自己評価 相互評価
3	住生活をつくる	○住居の機能を考える。 ○平面図の基礎知識を習得し，間取りや動線について理解する。 ○ライフステージに合った住居を考える。 ○室内外の環境に着目し，安全性・快適性等を考慮する必要性を理解する。 ○バリアフリーの考え方を理解する。 ○気候風土に応じた住居や住まい方の工夫，住様式があることを理解する。 ○住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し，持続可能な住生活とは何か考える。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a：生涯を見通して，住居の機能や住空間の計画などについて関心を持ち，よりよい住生活について考えようとしている。 ・安全で快適な住まい方や住環境について考えようとしている。 ・先人の知恵を生かした快適な住生活や住まい方について考えようとしている。 b：ライフスタイルや価値観に応じた，生命と健康を守るための暮らしの在り方について考え，工夫している。 ・家庭内事故や防災など，安全な住環境の課題について考えを深め，まとめたり，発表したりしている。 ・地球環境に配慮した快適な住環境や，自然環境や社会環境と調和した住生活について考え，まとめたり，発表したりしている。 c：よりよい居住環境を整備するために必要な平面図を読み取ることができる。 ・家族構成やライフステージ，生活価値観に応じた住空間の計画ができる。 ・健康や安全に配慮した室内整備や住環境について情報を収集・整理し，検討することができる。 d：住居の機能，住空間の計画，住環境など，安全で快適な住まいについて科学的に理解している。 ・安全と環境に配慮した住環境や現代の住生活の課題を認識し，その知識を身につけている。 ・住居と気候・風土・生活の関わり，住宅形態や住宅政策について理解している。	授業観察 ワークシート 定期考査 自己評価 相互評価

※ 表中の観点について　a：関心・意欲・態度　b：思考・判断・表現

c：技能　d：知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。